



# 平成23年12月期 第3四半期 決算説明資料

2011年10月31日

昭和シェル石油株式会社

## 注意事項

この資料には、当社グループ(当社及び連結子会社)の将来についての計画や戦略、業績に関する予想、見通しの記述が含まれています。

これらの記述は、本資料の発表日現在における情報に基づき判断したものであり、リスクや不確実性を含んでおります。

従いまして、経済情勢や市場動向、並びに為替レートの変動等の要因により記載の予想数値とは異なる結果となる可能性がありますので、予めご了承下さい。

# 決算ハイライト(1-9月累計)

## ■ 原油価格と為替レート

		2010年実績	2010年度 1-9月実績	2011年度 1-9月実績
ドバイ原油価格	(USD/バレル)	78.1	76.0	106.2
為替レート	(¥/USD)	87.8	89.5	80.6
	(¥/EUR)	116.3	117.6	113.4

## ■ 連結損益計算書ハイライト

(百万円)	2010年度 1-9月実績	2011年度 1-9月実績	増減	前年同期比(%)
売上高	1,737,547	2,077,636	340,089	+19.6%
営業利益	18,310	63,589	45,278	+247.3%
営業外損益	5,073	1,791	-3,282	-64.7%
経常利益	23,384	65,380	41,996	+179.6%
※在庫影響	-493	27,895	28,389	-
※CCSベース経常利益	23,878	37,484	13,606	+57.0%
特別損益	-1,178	3,003	4,182	-
当期純利益	11,298	32,514	21,216	+187.8%

【注】カレント・コスト・オブ・サプライ(CCS)ベースの収益: たな卸資産の評価の影響を除いた原価を用いて算出する収益

## 収益状況(1-9月)

- 平成23年第3四半期連結累計業績は、売上高2兆776億円(前年同期比19.6%の増収)、経常利益653億円(同419億円の増益)となりました。また、たな卸資産評価の影響を除く実質経常利益(CCSベース経常利益)は374億円(同136億円の増益)となりました。
- 石油事業においては、原油価格の上昇とともに石油製品の販売価格も上昇し、売上高は増収となりました。利益面では、前年同期比で原油価格が上昇していること、全体的にマージンが安定的に推移したことや中間留分を中心とする販売数量が拡大したこと等により、増益となっています。
- エネルギーソリューション事業の主力事業である太陽電池事業においては、本年2月に稼働を開始した国富工場(年産900MW)において、7月から全生産ラインで商業生産を開始したことに伴って供給量が増え、売上高は増加しています。一方、国富工場の立ち上げに係る費用が特に上半期で発生したこと、販売単価の下落の影響を受けたこと等により、収益は前年同期比で悪化しています。

# 事業概況(7-9月)

## ■ 石油事業

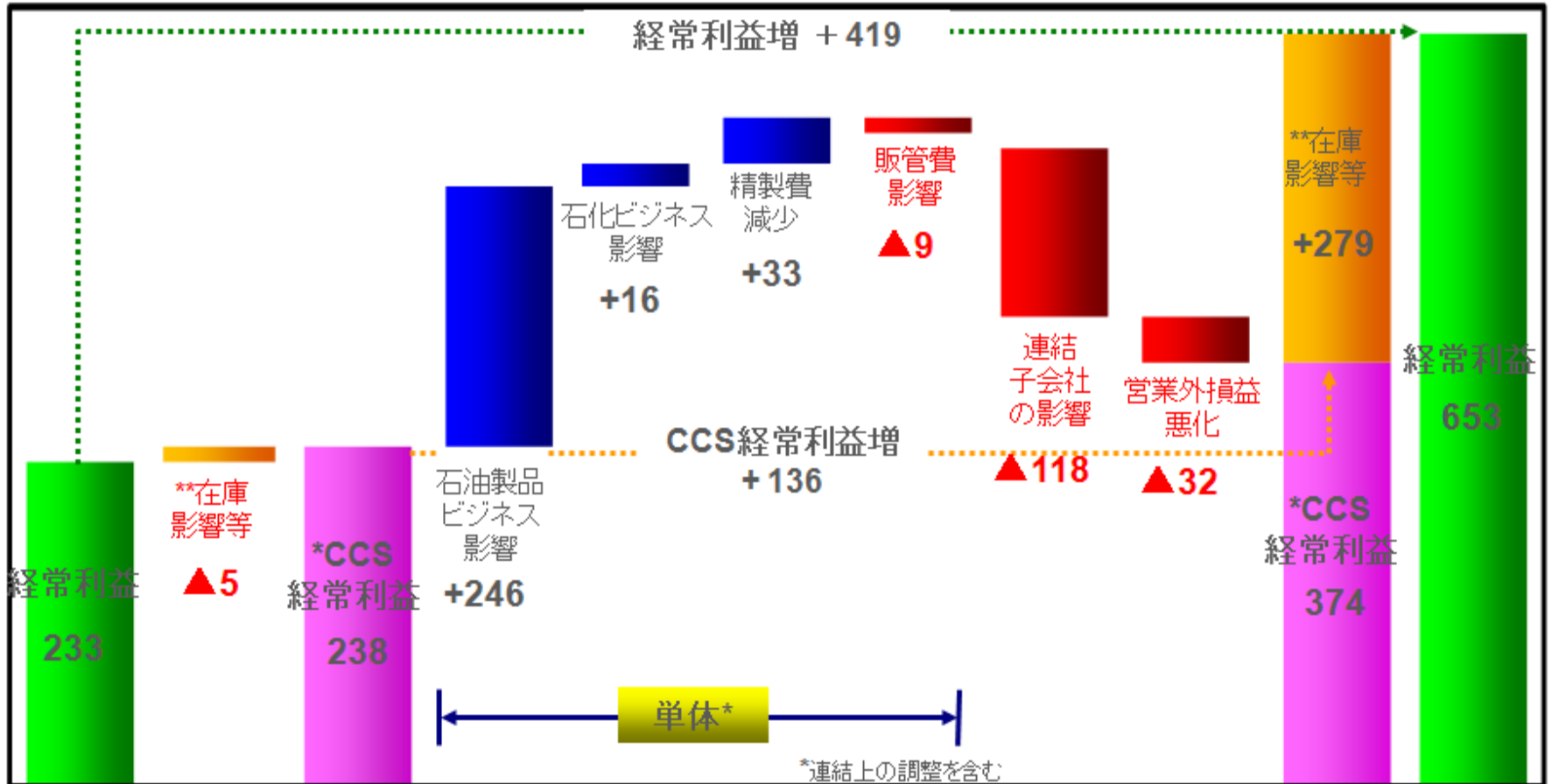
- ✓京浜製油所扇町工場について、9月20日に予定通り操業を停止し、同月30日には製品出荷を終えました。これにより装置稼働率を高めると同時に固定費を削減し、グループ製油所の競争力をさらに強化することになります。
- ✓特に上半期に堅調であった国内マージンは、第3四半期後半に製品在庫が増加したために、特に中間留分において縮小傾向になりました。一方、国内販売数量は夏場の需要が底堅かったガソリンを中心に増加しました。
- ✓輸出については新興国の堅調な需要とアジア域内の主要製油所のトラブルにより、前年同期比でマージンが改善しました。一方、国内での堅調な販売のため、第3四半期の輸出量は前年同期比で減少しています。

## ■ エネルギーソリューション事業(太陽電池事業)

- ✓世界最大規模の生産能力を誇る国富工場が7月に全生産ラインで商業生産を開始し、900MWの生産体制構築に向けて順調に稼働を続けました。
- ✓太陽電池市場では需要に対する供給量の増加を主要因として、上半期に引き続き製品価格は下落しました。

# 要因分析

(単位:億円)



2010年1-3Q

2011年1-3Q

\* CCS: Current Cost of Supply (在庫評価の影響を除いたもの)  
 \*\* 「在庫影響等」には、たな卸資産の簿価切下げによる影響を含む。

# 原油処理実績と販売数量実績(1-9月累計)

## ■ 原油処理実績と稼働率

		2010年度	2010年度 1-9月実績	2011年度 1-9月実績
原油処理実績	(千KL)	25,168	18,481	20,444
稼働率	(%)	84.2%	83.3%	92.2%

## ■ 製品別販売数量

(千KL)	2010年度 1-9月実績	2011年度 1-9月実績	前年同期比
揮発油	6,805	7,110	+ 4.5%
ジェット燃料	1,626	1,544	- 5.0%
灯油	1,611	1,911	+ 18.6%
軽油	3,227	3,682	+ 14.1%
A重油	1,023	1,168	+ 14.1%
C重油	1,027	1,278	+ 24.4%
その他	3,142	3,140	- 0.1%
輸出	3,397	2,977	- 12.4%
合計	21,859	22,809	+ 4.3%

# 平成23年12月期連結業績予想

## ■ 原油価格と為替レートの前提

		2010年度 実績	2011年度前回想定 (7月発表)	2011年度想定 (今回修正)	修正値
ドバイ原油価格	(USD/バレル)	78.1	108	107	-1
為替レート	(¥/USD)	87.8	81	80	-1
	(¥/EUR)	116.3	115	111	-4

## ■ 連結業績予想

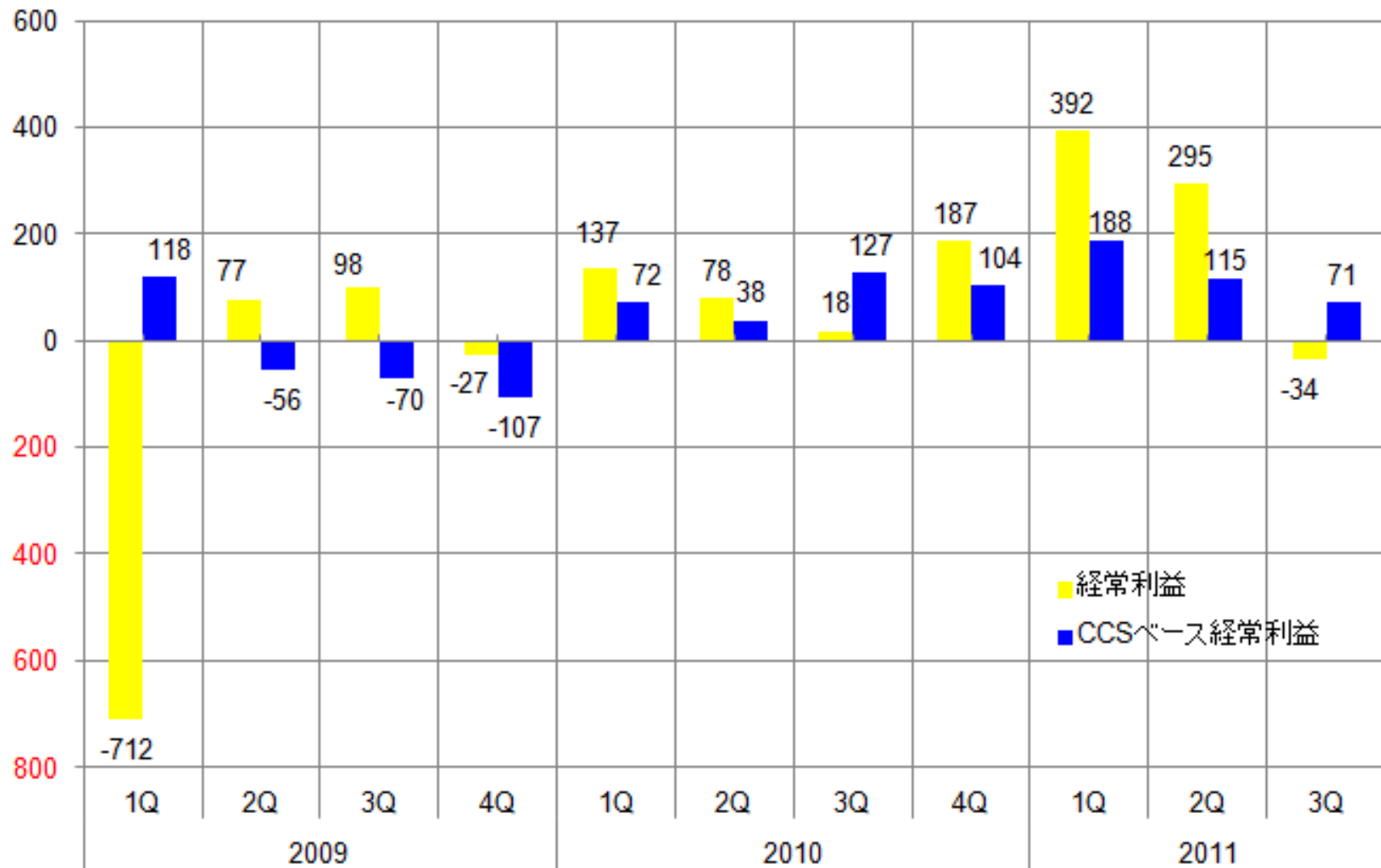
(百万円)	2010年度 実績	7月発表予想	2011年度 今回修正予想	修正値	前年同期比(%)
売上高	2,346,081	2,840,000	2,770,000	-70,000	+18.1%
営業利益	36,701	75,000	59,000	-16,000	+60.8%
経常利益	42,148	75,000	60,000	-15,000	+42.4%
※在庫影響	7,861	42,000	30,000	-12,000	+281.6%
※CCSベース経常利益	34,286	33,000	30,000	-3,000	-12.5%
当期純利益	15,956	39,000	28,000	-11,000	+75.5%



# 参考データ集

# 四半期別 経常利益の推移

単位:億円



# 決算ハイライト(7-9月)

## ■ 原油価格と為替レート

		2010年度 7-9月実績	2011年度 7-9月実績
ドバイ原油価格	(USD/バレル)	73.9	107.1
為替レート	(¥/USD)	85.9	77.9
	(¥/EUR)	110.7	110.2

## ■ 連結損益計算書ハイライト

(百万円)	2010年度 7-9月実績	2011年度 7-9月実績	増減	前年同期比(%)
売上高	567,326	696,700	129,374	+22.8%
営業利益	1,121	-4,052	-5,173	-
営業外損益	687	614	-72	-10.6%
経常利益	1,808	-3,438	-5,246	-
※在庫影響	-10,943	-10,596	347	-
※CCSベース経常利益	12,751	7,157	-5,593	-43.9%
特別損益	-261	202	464	-
当期純利益	-281	-4,729	-4,447	-

【注】カレント・コスト・オブ・サプライ(CCS)ベースの収益: たな卸資産の評価の影響を除いた原価を用いて算出する収益

# 原油処理実績と販売数量実績(7-9月)

## ■ 原油処理実績と稼働率

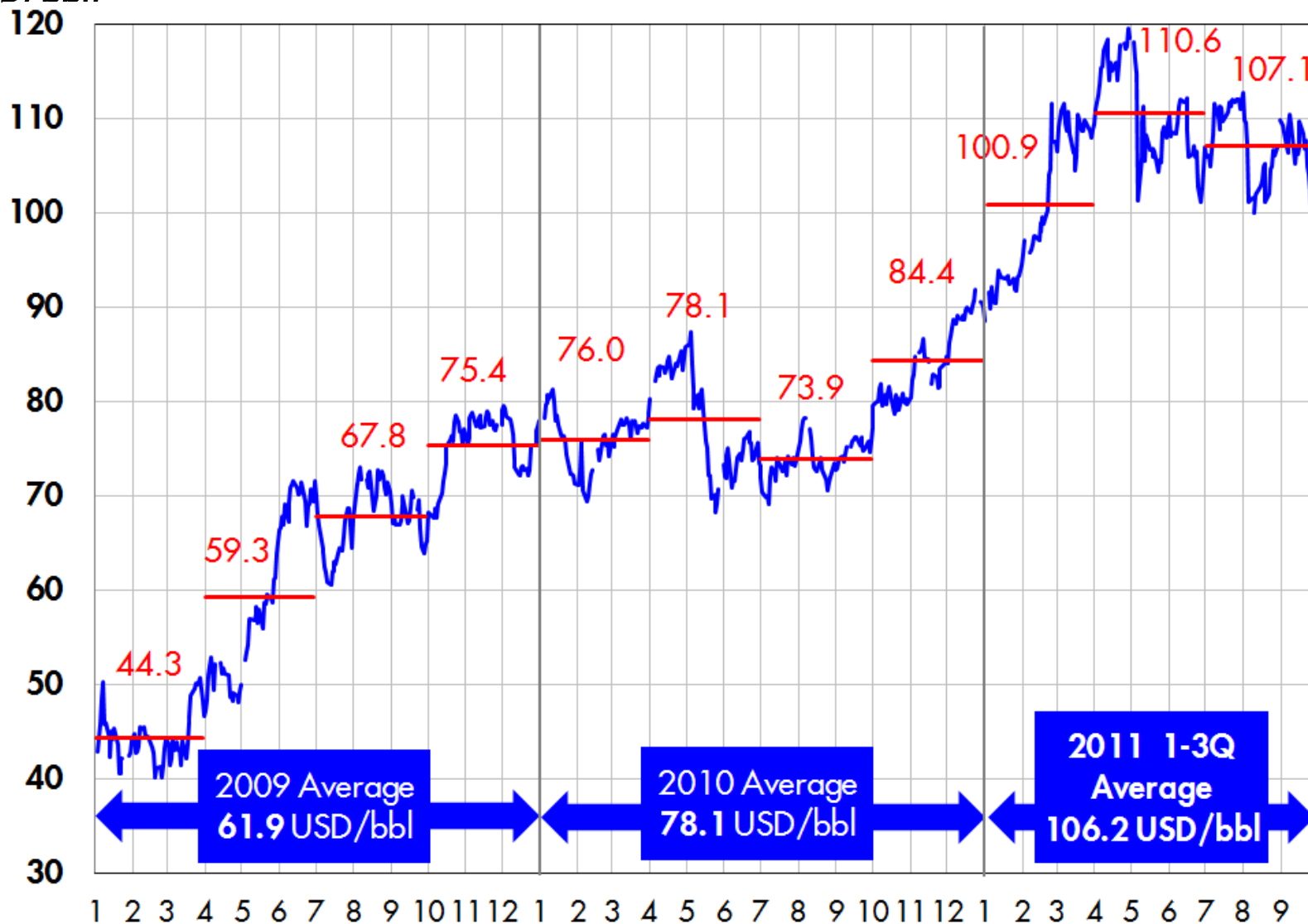
		2010年度 7-9月実績	2011年度 7-9月実績
原油処理実績	(千KL)	6,105	6,634
稼働率	(%)	81.0%	90.4%

## ■ 製品別販売数量

(千KL)	2010年度 7-9月実績	2011年度 7-9月実績	前年同期比
揮発油	2,383	2,595	+ 8.9%
ジェット燃料	558	544	- 2.6%
灯油	219	242	+ 10.3%
軽油	1,117	1,192	+ 6.6%
A重油	319	314	- 1.7%
C重油	347	472	+ 35.9%
その他	1,001	1,001	- 0.0%
輸出	1,243	1,090	- 12.3%
合計	7,187	7,447	+ 3.6%

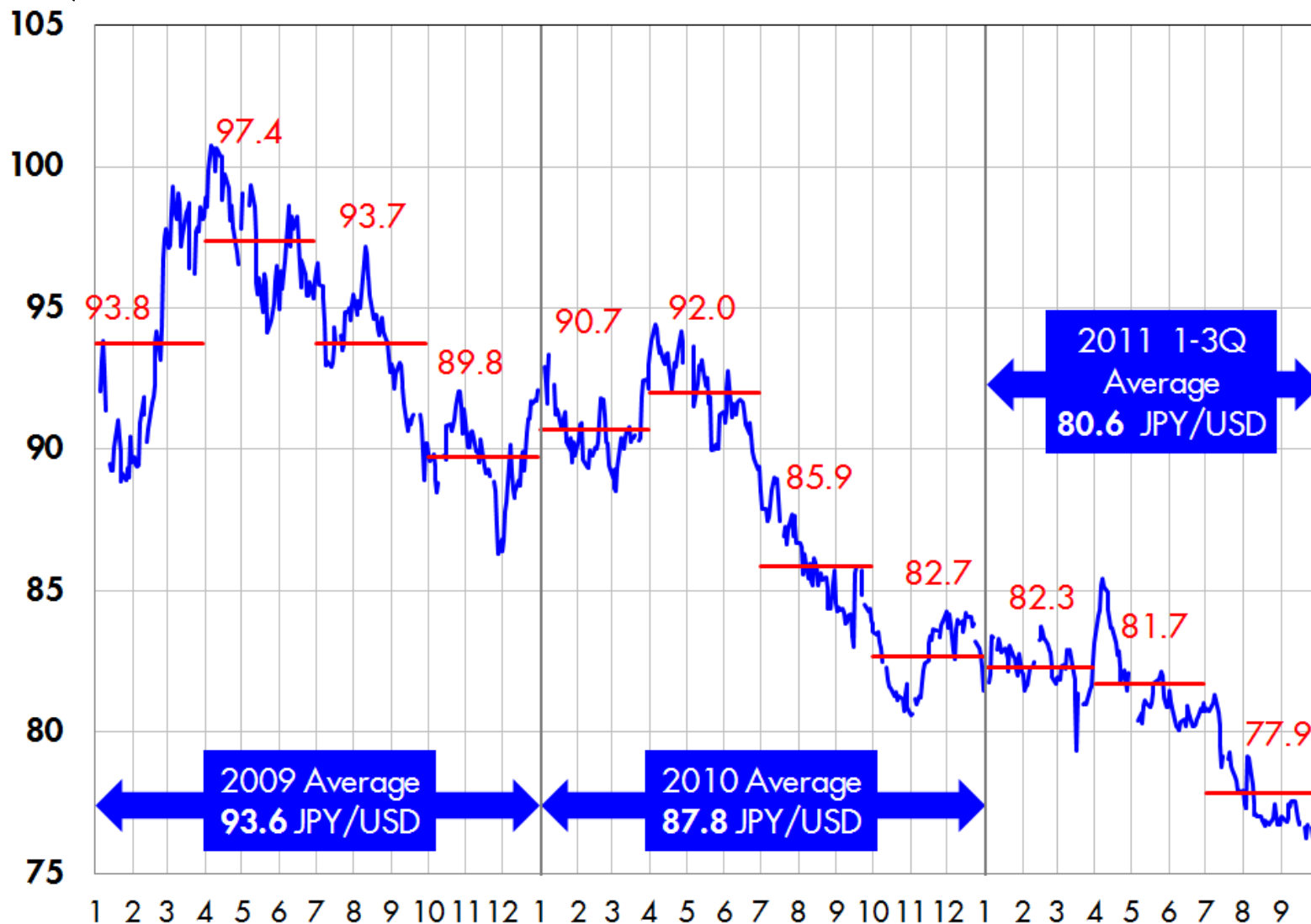
# ドバイ原油価格の推移

(USD/bbl)



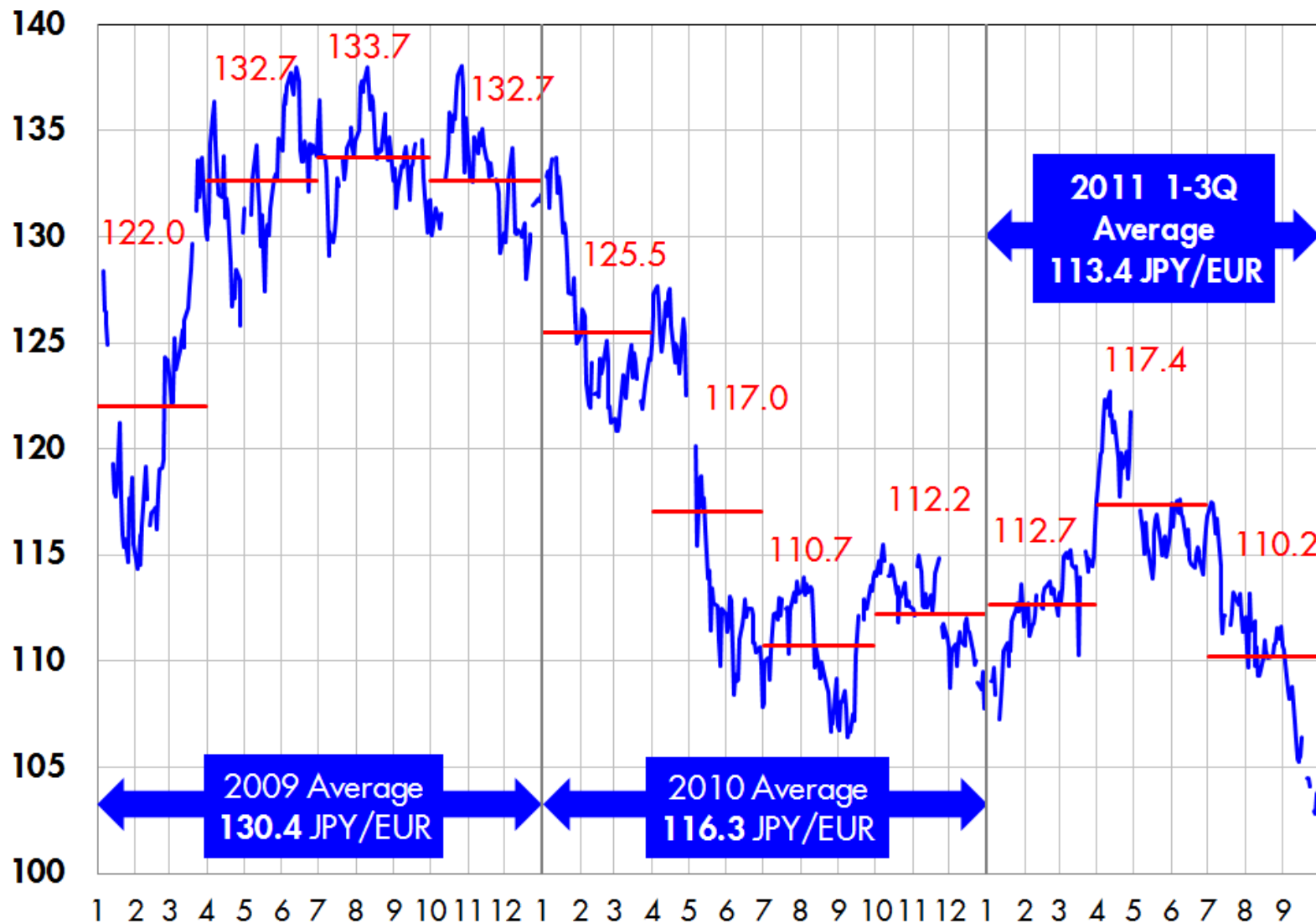
# 為替レートの推移(円/アメリカドル 仲値)

(JPY/USD)



# 為替レートの推移(円/ユーロ 仲値)

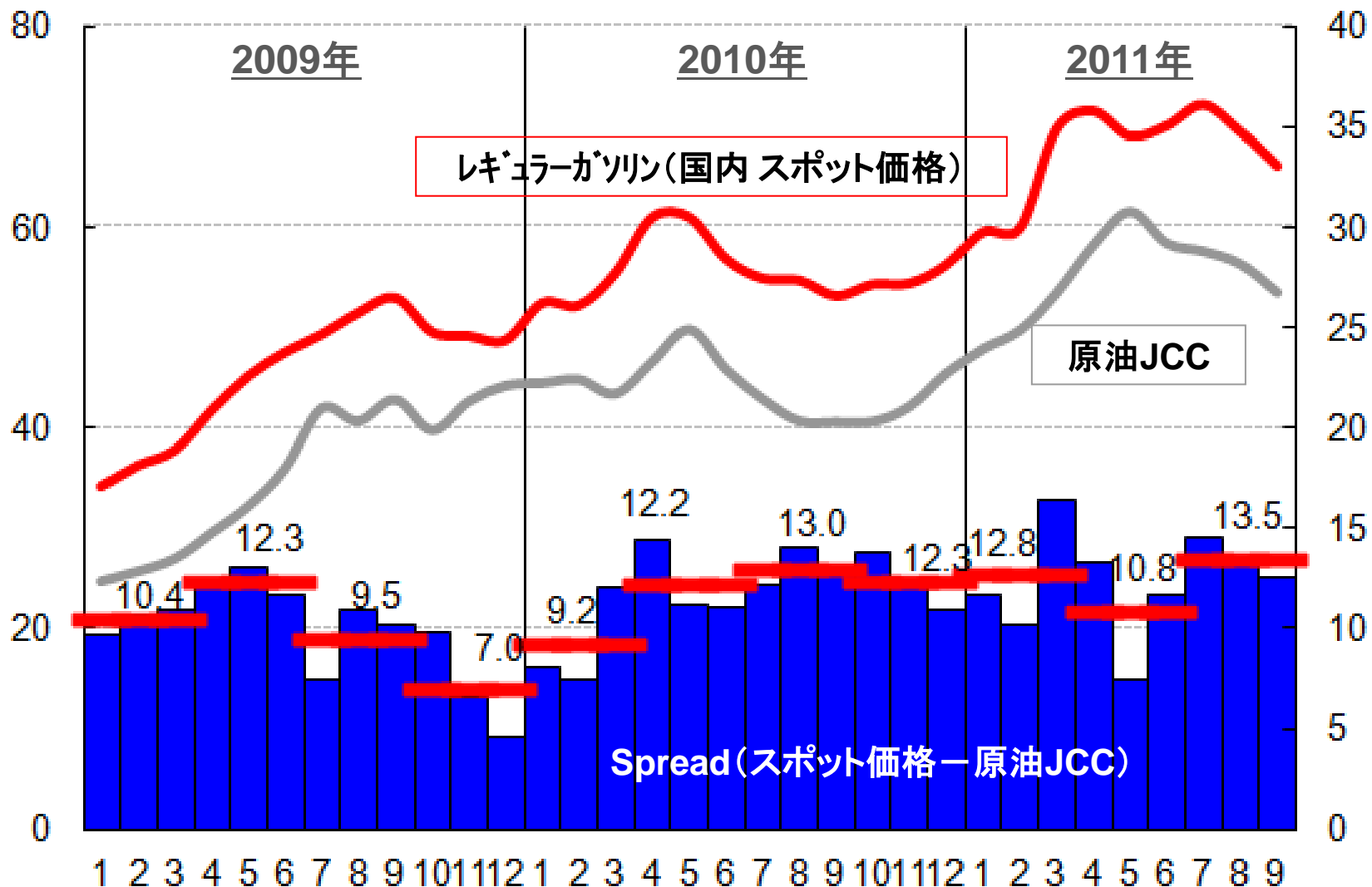
(JPY/EUR)



# 国内マーケットの状況①(ガソリン)

原油・製品価格 ¥/L

Spread ¥/L

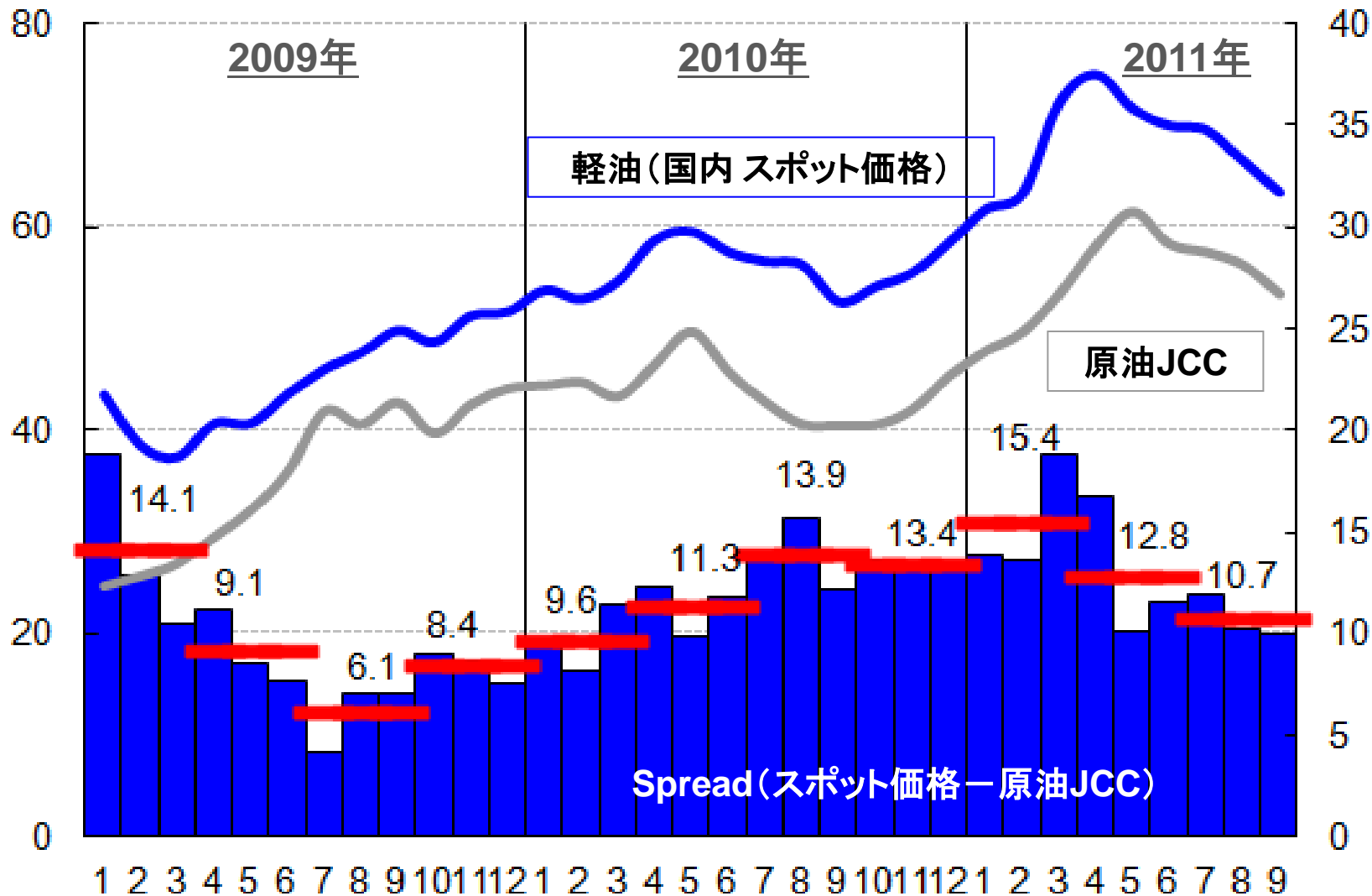




# 国内マーケットの状況②(軽油)

原油・製品価格 ¥/L

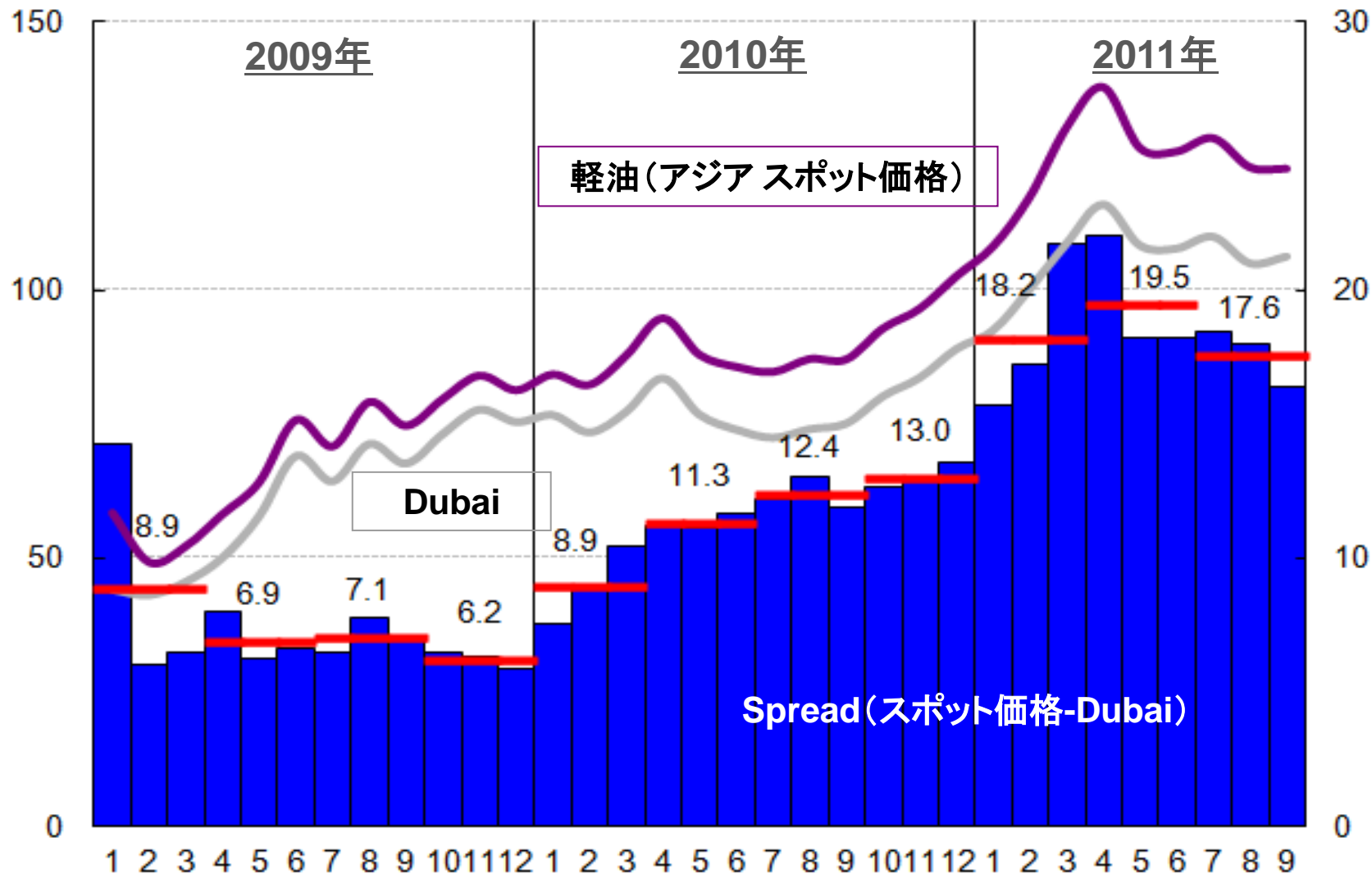
Spread ¥/L



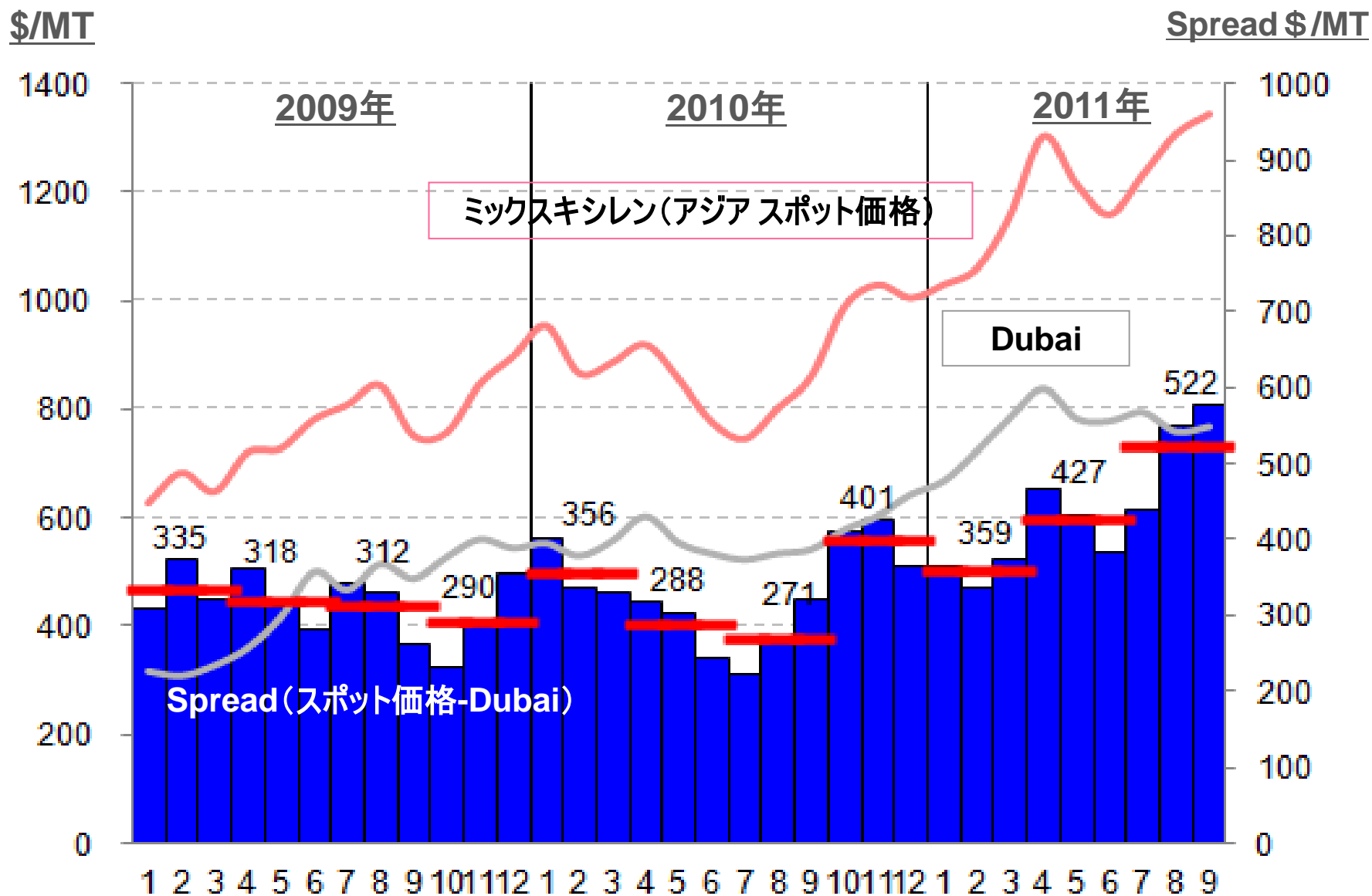
# 海外マーケットの状況①(軽油)

\$/bbl

Spread \$/ bbl



# 海外マーケットの状況②(ミックスキシレン)



# 2011年第3四半期 トピックス

## 年間発電量目標を前倒しで達成！【7月】

日本初の商用メガソーラーとして旧新潟製油所跡地に建設した「新潟雪国型メガソーラー」は、2010年8月31日の事業開始以来順調に発電を続け、年間発電量目標の100万kWhを、40日あまり前倒しとなる7月25日に達成しました。冬季に降雪や曇りの多い新潟において高い発電実績を示したことで、ソーラーフロンティア(株)のCIS薄膜太陽電池の優位な発電性能が実証されました。



## 全ラインで商業生産開始！【7月】

単一の太陽電池工場としては世界最大級の国富工場(年産能力900メガワット)において、投資決定から21カ月という短期間で全生産ラインが商業生産を開始しました。現在は900MWの生産体制確立に向けて順調に稼働を続けています。



## サウジアラビア王国ファラサン島で発電開始！【7月】

サウジ電力会社と昭和シェル石油(株)、ソーラーフロンティア(株)が進めてきたファラサン島における太陽光発電のパイロット・プラントが稼働を開始しました。このプラントは、サウジアラビアで最初の商用発電設備であり、高温かつ砂漠という厳しい条件下での、CIS薄膜太陽電池の優位性が証明されています。

## 扇町工場を予定通り停止し、さらなる効率生産へ【9月】

京浜製油所扇町工場(日量120,000バレル)の操業を予定通り9月20日に停止しました。これにより、固定費の削減と当社グループ製油所の稼働を高め、さらに効率の高い操業を実現します。

